

第3回 広域機関システム中長期計画検討会 議事概要

1. 日時

2019年12月16日(月) 10:00～11:30

2. 場所

電力広域的運営推進機関(新豊洲)会議室B・C

3. 出席者 ※順不同・敬称略

【座長】

江崎 浩 (東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授)

【委員】

加藤 浩二 (東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部 広域給電グループマネージャー)

園田 光寛 (中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー 系統運用部 給電計画グループ 課長)

石井 幹也 (電力広域的運営推進機関 運用部長)

【オブザーバー】

新谷 宏治 (電気事業連合会 電力技術部 副部長)

鍋島 晃 (電気事業連合会 企画部 副部長)

山川 伸一郎 (日本アイ・ビー・エム株式会社 戦略コンサルティング部 部長)

宮里 孝則 (電力・ガス取引監視等委員会事務局 ネットワーク事業監視課 課長補佐)

【事務局】

内藤 淳一 (電力広域的運営推進機関 理事)

江川 敏久 (電力広域的運営推進機関 運用部広域システムグループ マネージャー)

松井 賢 (電力広域的運営推進機関 運用部広域システムグループ 副マネージャー)

丸山 裕司 (電力広域的運営推進機関 運用部広域システムグループ 副マネージャー)

4. 議題

- (1) 2020年度の予算について
- (2) 2020年度の検討作業会開催について
- (3) 次期システムのリプレースについて
- (4) その他

5. 添付資料

資料1: 議事次第

資料2: 2020年度の予算について

資料3: 2020年度の検討作業会開催について

資料4: 次期システムのリプレースについて

6. 議事の経過

(1) 2020 年度の予算について

事務局より資料 2 を用いて以下の説明があった。

予算平準化の観点から 2020 年度もリース払いを併用する。見通しが立っていない開発項目や緊急の大規模な制度対応は計画外対応とする。保守費用の削減につながる機能改良については継続的に実施する。コスト低減の取組みとして、機能改良は利用者ニーズに基づき優先順位と費用対効果が高いものを実施。実施タイミングについても配慮し、コスト削減につながるものを選定済み。予算見積りについては日立の生産性向上を加味した工数で算定している。予算全体の 46%が過去開発のリースであり、64%が既存リースと保守費用の固定費的なものとなっている。残りの 36%が機能改良と制度対応になる。

座長より、本日の指摘事項を反映した更新版資料提出の指示があったが、検討会として 2020 年度の予算に関しては認めることとなった。

(2) 2020 年度の検討作業会開催について

事務局より資料 3 を用いて、来年度も検討会については 9 月、12 月の年 2 回を予定。作業会については検討会の前に 2 回程度の実施を予定している旨の説明があった。

特に異議はなく、来年度も引続き開催することとなった。

(3) 次期システムのリプレイスについて

事務局より資料 4 を用いて、2020 年度中に対応方針およびスケジュールについて検討したいとの提案があった。時期によっては現行／次期双方のシステム改修およびデータ移行等が発生するため、制度対応の動向により仕様確定のタイミングを図り、予算的にも既リース支払の終了時期を踏まえ費用発生タイミングを図りたい旨の説明があった。

2020 年度中に方針について検討することとなった。

(4) その他

来年度、予算および次期システムのリプレイスにつき簡単なペーパーを公表することとなった。

以 上